

農業かなざわ

金沢市農業委員会憲章

みのり豊かな金沢の土に親しむわたくしたちは、このかけがえのない自然を守り魅力ある農業を築くため、誇りと責任ある行動に努めます。

- 1 農地をまもり 自然と調和する活力あるまちづくりをめざします
- 1 意欲ある担い手をそだて 農業経営の合理化をはかります
- 1 生産技術をたかめ 農地の規模拡大と友好利用をすすめます
- 1 研究と情報の輪をつなげ 暮らしと福祉の向上にとめます
- 1 時代にこたえ 健康で個性豊かな金沢の食生活をひろめます

平成3年1月28日制定



菓子田 利宏さん

金沢農業大学校修了生 菓子田 利宏さん(打木町)

連日強い日差しが照り付ける7月の昼下がり、金沢農業大学校修了生(第15期生)の菓子田利宏さんを訪ねました。志賀町出身の菓子田さんは、会社員として東京で就職しましたが、結婚を機に金沢に移住され、金沢農業大学校で栽培の基礎を学び、(株)金沢アグリプライドでの2年間の現場経験を経て独立されました。

菓子田さんは打木地区にあるビニールハウスで、加賀太きゅうり・トマト・メロン・小かぶ・春菊を育てています。8月末に出荷予定のトマトとメロンの栽培に力を入れている時期でした。トマトは水分管理が非常に難しく、特に雨が続くと実が割れやすくなるため、常に細心の注意を払っているとのことでした。また、ビニールハウスでの栽培は、天候に左右されにくく反面、積雪による倒壊への注意や、経年劣化によるビニールの張替えなど、手間もお金もかかるそうです。

現在はお一人で栽培に取り組まれており、「独立してまだ2年目なので、まずは自分ひとりでどこまで出来るか、その限界を知りたい」とにこやかに語る様子には、優しさと共に誠実さと確かな情熱が感じられました。また、トマトと加賀太きゅうりを栽培品目に選んだ理由を伺ったところ、目を細めながら「娘が好きな野菜だったから」との微笑ましいエピソードも披露していただきました。

打木町や隣接する下安原町は、金沢市を代表する砂丘地農業の主産地です。しかし、近年は後継者不足や高齢化、肥料や農業資材の価格高騰等の影響により、休耕地が散見される状況にあります。菓子田さんのような新規就農の方が、近隣農家の方々の協力を得て、農地やビニールハウスを借りて就農するには良いタイミングかもしません。これからも健康に留意され、金沢の砂丘地農業を牽引されるご活躍を期待しています。



↑崖を背に手入れされた赤ずいき畑。
付近にはイノシシが荒らした跡も

→「試行錯誤し地力を上げる肥料設計を目指している」とのこと



困難な状況の中、「全部守ろう」とすると失敗する。何かを諦めてもやるしかない。」と前を向かれ、厳しい自然環境の中であっても大地を享受する農業を楽しみ、消費者に美味しく安全・安心な野菜を届けたいと意欲旺盛に話されました。常に理想とする農業環境を追い続ける姿勢が頼もしく、今後も元気で活躍を続けられることを期待します。

猛暑と水不足が全国ニュースで連日報じられる7月下旬、金沢農業大学校修了生（第13期生）の吉田慎一さんを取材で訪ねたところ、吉田さんもまた水不足に苦慮されていらっしゃいました。吉田さんが農業を営む竹又町は、金沢市北東部に位置し森本駅から車で約20分の山と緑の自然豊かな中山間地です。崖に沿うように配した細い市道を抜けた先に吉田さんの畑があり、約60aの農地に赤ずいき、ねぎ、自然薯（金沢藤五郎）、ミニトマトなどを栽培されています。JA金沢市の自然薯と赤ずいきの部会に加入され、地域の人たちとの交流を大切にされながら技術を磨かれています。農業に従事され6年目ですが、土壤分析や、pHバランスの調整、肥料の3要素・微量元素の配合に至るまで細やかに配慮され、日々熱心に研究されている様子でした。その成果から6年連作しても病害虫や病気が少なく、安定して出荷できているのです。土壤分析から栽培管理、収穫出荷、販売まで全てお一人で取り組まれていますが、就農するまでの期間に就いた様々な職種のノウハウや、これまでの人間関係が役に立つていると話されました。

隣接する松根城側から水が流れ込み、これまで枯れることがなかつた場所ですが、連日の猛暑で吉田さんの畑も深刻な水不足に陥っているとのことでした。山の水が途切れたため、毎日200リットルの水を汲みに近隣の川まで車で往復されていらっしゃいました。それでも水不足をカバーできない赤ずいきや自然薯の一部についてた。今年度は生産を諦める苦渋の決断をされたとのことでして、

吉田 慎一さん（竹又町）

（取材 広報編集委員 山口、五坊、山村）

県外農事視察研修報告

令和7年5月28日から30日の3日間の日程で、農業委員13名、推進委員7名、事務局2名の計22名で法人等4件の視察を行いました。

秋田県仙北市農業委員会では女性農業委員の登用比率向上のための取組事例を、㈱あさあけ農場（山形県尾花沢市）やキートスマーム（岩手県盛岡市）ではSDGsや園芸振興などの様々な取組実例を、JA山形市では農産物のブランド確立に向けたPR活動やスマート農業の導入実績、新たな担い手育成・新規就農者受け入れ状況を学びました。

視察した先々で学んだ課題は、金沢を含めどの地域でも内包するものです。今回得た知見と広い視野をもって、金沢の農業活性化の推進に貢献していきたいと改めて決意を固めました。

（取材 広報編集委員 山川、田辺、鮎岡）

農業かなざわに関する情報は
編集発行 金沢市農業委員会

農業かなざわ

検索

電話 076-220-2223

